

昔 日 の 感

円高、貿易黒字、半導体摩擦、売上税など、内外ともに難題を抱える昭和62年度を迎えた。なかんずく間接的にも農業に関係する者にとって、最大の関心事は、農政問題である。遂に聖域とされる米にまで論議が及んできた。農産物の市場開放、未曾有の水田 77 万 ha の減反、国鉄の次の改革と目されている食管理制度など、農政を取り巻く心配事が甚だ多い。ふり返ってみると、昭和30年代後半の高度経済成長の最も大きな担手は、農村の安くて豊富な労働力であった。外資を稼ぐことが、我国の経済発展の市場ということで、農村の若者は、都市へ集中し、農業は、じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃんのいわゆる三ちゃん農業と言われ、専業農家は、第一種兼業からさらに、第二種兼業農家へと急速に移行した。一方では、不足する農産物の自給力を高めるために、米の増産運動が展開された。高齢化、不足する農業労働力のなかで農薬、肥料、農機など農業資材と適切な農業政策が相まって、その目的が遂行された。

こうして今や、我国は世界一の貿易黒字国となって、赤字の増大する米国や西欧諸国から、非難を一手に浴びている。そして国内では、米を含む農産物の自由化など飛躍的経済発展の原動力となった農政に批判の目が向けられている。

昨年11月、農政審議会から出された「21世紀へ向けての農政の基本方向」という小冊子を拝読した。内容的に多岐に亘る諸問題をわかり易く整理され、将来の日本農業のあるべき姿を示唆されている。中曽根内閣もこの答申をもとに、農政改革に着手したいとの意向を示されているが、過去、将来を問わず、我国の発展の基礎は、

目 次 (第21巻 第1号)

果樹園の除草体系…………… 2

＜福島県果樹試験場 井上重雄＞

1. 土壤管理法の実態…………… 2
2. 果樹園に発生する雑草の種類…………… 3
3. 雑草の影響…………… 3
4. 雑草管理に要する労力…………… 4
5. 除草剤の普及と必要性…………… 5
6. 除草剤としての条件…………… 6
7. 福島県で使用されている除草剤…………… 6
8. 福島県における除草剤の使用体系…………… 7
9. 除草剤の適正な使い方…………… 8

クリ園における下草管理…………… 9

＜茨城県園芸試験場 山本正幸＞

1. 茨城県におけるクリ園の年間管理…………… 9
2. クリの根の生育と有機質…………… 10
3. クリ園の土壤管理…………… 10
4. クリ園の草種…………… 11
5. 草生管理…………… 12
6. クリ園で使用されている除草剤…………… 13
7. クリ園におけるグリホート液剤
の3年連続使用と効果…………… 14

昭和61年度リング用除草剤・生育調節
剤試験成績概要…………… 18

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会
技術部＞

農業にあることを十分認識して頂き、農政を遂行して頂きたいと念じている。

〔八洲化学工業株式会社相談役 小島雄次〕